

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 20 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2014～2015

課題番号：26884012

研究課題名(和文)ウラジーミル・ナボコフの当時のコンテキストにおける受容研究

研究課題名(英文)The study of the reception of Vladimir Nabokov's literature

## 研究代表者

秋草 俊一郎(AKIKUSA, Shun'ichiro)

東京大学・教養学部・講師

研究者番号：70734896

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：ウラジーミル・ナボコフの当時のコンテキストにおける受容について研究をおこなった。北米のアーカイブ(ハーヴァード、MIT、テキサス大学オースティン校ハリランサムセンター、議会図書館)を訪問して、所蔵書簡等のリストを作成することができた。その結果、把握した1940年代における、渡米後の受容のされ方について、アメリカの前衛的出版社ニューディレクションズ創業者ジェームズ・ロフリンとナボコフとの関係について、知見をえ、日本ナボコフ協会大会にて「ナボコフとロフリン」として口頭発表した。

研究成果の概要(英文)：I visited and researched some archives in the United States--Houghton Library at Harvard University, Institute Archive at MIT, Harry Ransom Center at The University of Texas at Austin, and the Manuscript Division at Library of Congress. I made lists of the papers which the archives hold and find some facts about the relationship between Nabokov and James Laughlin, the founder of New Directions. Finally, I have presented a paper "Nabokov and Laughlin" in the annual convention of Nabokov Society of Japan in 2015.

研究分野：文学研究

キーワード：アメリカ文学 ロシア文学 比較文学 翻訳研究 世界文学 出版史 草稿研究

### 1. 研究開始当初の背景

ナボコフの作品『ロリータ』、あるいはその伝記的事実の一部 亡命者であり、英露両言語に精通してすぐれた文学作品を書いた はよく知られている。ナボコフの伝記としては、ブライアン・ボイドによる二巻本の大部の伝記(1990-91)が長いあいだ「決定版」として君臨してきたが、アンドレア・ピッツァーによる米国移民局などの新資料を用いた伝記が2012年に発表され、伝記的事実についてもいまだ更新の余地があることが示された。また、2009年にはワシントンDCの議会図書館に寄贈された資料(原稿・書簡など)が一般に閲覧を解禁され、アーカイヴから新規発見された英露翻訳を収録された翻訳集 *Verses and Versions* の出版(2008)、遺稿である『ローラのオリジナル』の出版(2009)、今後も妻ヴェラとの書簡集の出版が予告され、ナボコフ研究はアーカイヴ資料のサルベージによるコーパスの拡張あるいは、拡張したコーパスにアーカイヴ資料を組み合わせた研究がおこなわれる新たなステージに入ったと言える。

こうした研究動向のなかで浮上した課題のなかに、ナボコフの受容というテーマがある。ナボコフと出版というテーマについてはユリー・レヴィングが精力的に取り組んでおり、各国の『ロリータ』の表紙だけを集めた書籍や、『プレイボーイ』誌との関連についての研究成果をすでに発表している。また亡命ロシア文化という観点からは、日本でも諫早勇一が研究成果を発表している(『ロシア人たちのベルリン』、2014)。本研究期間内には、触れるように1940年代当時は新興の出版社だったニューディレクションズとナボコフの関係を主に研究するが、ニューディレクションズが受容に果たした役割という観点からは、ナボコフとは離れるが、Greg Barnhisel のモノグラフ *James Laughlin, New Directions, and the Remaking of Ezra Pound* (2005) がニューディレクションズとその創業者ロフリンがパウンド受容およびモダニズム普及に果たした役割を論じており、ナボコフの場合にもモデルケースとして利用できる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、ウラジーミル・ナボコフ(1899 - 1977)の未公刊書簡・出版資料を調査することによって、作家が受容されたコンテクストを再構築することにある。帝政ロシアに生まれたナボコフは亡命し、のちにアメリカに渡って『ロリータ』などの作品で、20世紀を代表する作家という国際的な評価をえるにいたった。ただし、『ロリータ』以前のナボコフ作品の受容はロシア語時代・英語時代ふくめて、さほど明らかになっているとは言いがたい。ひとつの理由として、ナボコフの書簡・一部の原稿などの資料は未公刊のものも多く、専門家でも全貌を把握できていない現状がある。本研究では、北米のアーカ

イヴを訪問して書簡・当時の広告・書評などの資料を収集し、ナボコフの受容を明らかにする。

### 3. 研究の方法

本研究では、具体的な研究方法としてアーカイヴ調査の手法を用いる。調査をおこなう図書館として、ハーヴァード大学・テキサス大学などの各大学図書館、ニューヨーク公共図書館を予定している。調査の対象としては、英語資料だけでなく、ロシア語資料もふくめているので、ナボコフについて網羅的・総合的な理解をすすめることができる。主に以下の二点を重点的に行う。

(A) 編集者・出版社とのやりとりを中心にした、ナボコフの未公刊書簡のアーカイヴ調査  
(B) ナボコフの作品の出版当時の資料(広告・書店への宣伝資料・書評)の調査

具体的な研究方法について、(1) 研究活動と(2) 成果の公表の二点に分けて述べる。

#### (1) 研究活動

アーカイヴ調査を行うが、調査対象は以下の二点である。

(A) 編集者・出版社とのやりとりを中心にした、ナボコフの未公刊書簡のアーカイヴ調査  
ナボコフとニューディレクションズの創業者であるロフリン間の書簡については『ナボコフ書簡集』に収録された14通の書簡をのぞいて現在まで公開されていない。ロフリンはナボコフにとって実質的に最初のアメリカでの編集者になった「恩人」だったが、評論『ニコライ・ゴゴリ』の巻末の注でナボコフはロフリンを揶揄するなど、その交流関係は複雑である。予備調査で、ハーヴァード大学ホートン図書館に収蔵されている関係書簡だけでも500通を超えるということがわかっていて、ロフリンはハーヴァード大学在学中に、エズラ・パウンドの示唆により父親からの援助のもと出版社ニューディレクションズを創業した。このロフリン/ニューディレクションズは、アメリカにおけるモダニズム運動において重要な役割を果たした publisher であり、それは研究目的ですでに触れた Barnhisel のモノグラフだけでなく、W. W. Norton & Company 社から出版されたロフリンとウィリアム・カーロス・ウィリアムズ、ケネス・レクスロス、ヘンリー・ミラー、デルモア・シュワルツなどとの一連の往復書簡集からも明らかである。ナボコフ/ロフリン/ニューディレクションズの書簡をホートン図書館でまず調査した後、ニューヨーク公共図書館のバーク・コレクションで調査して照合し、正確なリストを製作する(ロフリン/ニューディレクションズ書簡の原本はニューヨーク公共図書館に、ナボコフの書簡の原本はホートン図書館にあるため)。余裕があれば、テキサス大学オースティン校のハリー・ランサム・センターに収蔵されている『アトランティック・マンズリー』の編集者エドワード・ウィークスとナボコフの書簡についてもニューヨーク公共図書館とのあい

だで同様の調査を行う。アーカイヴ調査がつつがなく遂行された暁には、ナボコフとロフリンの書簡の中で重要なものをピックアップしてパブリッシュできないか働きかけることも考えたい。実際、書簡集に収められていないナボコフの書簡で、あとから雑誌にパブリッシュされたものは多い。

(B)ナボコフの作品の出版当時の資料(広告・書店への宣伝資料・書評)の調査書簡だけでなく、ナボコフの作品がどういったパッケージで出版されたのかにも注目し、調査を行う。1940年代当時、ニューディレクションズのブックカバーのデザインを務めていたのはアルヴィン・ラスティグというデザイナーだったが、その先駆的なグラフィック・デザインは、当時のアメリカ出版界において画期的なものだったと評価され、すでにモノグラフも何冊か出版されている(Steven Heller, *Born Modern: The Life and Work of Alvin Lustig*, 2010, Ned Drew, *Purity of Aim: The Book Jackets of Alvin Lustig*, 2010)。ロフリンはラスティグのカバーをニューディレクションズの出版精神をあらわすものとして高く評価しており(Bookjackets for New Directions Books, 1947)そのラスティグがナボコフの本のカバーも三冊デザインしているという事実はナボコフのアメリカ受容の観点から見過ごされるべきではないだろう。ブックカバーは一例だが、ニューディレクションズのカタログ、書店用に前もって配布されたパンフレット、ニューディレクションズ発行の雑誌(ナボコフの翻訳を載せた *New Directions Poetry and Prose*)や、ほかの媒体での広告、書評を調査する。あるいはほかの雑誌(『アトランティック・マンスリー』)に掲載されたときの体裁・扱いなどを調査する。こうした広告などから作家の需要について理解できることは多い。こういったもの(ephemera)は、アーカイヴに収蔵されていることもあれば、ブックカバーなどは捨てられてしまっていることも多いため、実物を購入することになる可能性もある。ただし、ニューディレクションズ関連の広告・宣伝資料に関してはホートン図書館のアーカイヴに一定点数が保存されていることがわかっているため、優先的に調査する。

#### (2) 成果の公表

なお、成果の公表先としては、アメリカでおこなわれるロシア文学・英米文学の学会の大会(ASEES(米国スラブ・ユーラシア・東欧学会)、MLA(米国現代語文学協会)などの大規模なコンベンション)での英語での口頭発表、国際ナボコフ学会での英語での口頭発表(次期開催地不明)国内の学会(日本ナボコフ協会、日本アメリカ文学会、日本ロシア文学会)での口頭発表である。および国際ナボコフ学会の学会誌 *Nabokov Studies* や *The Nabokovian*、*Nabokov Online Journal* などへの英語論文という形を目指す。もちろん並行

して日本の比較文学やロシア文学、アメリカ文学や翻訳研究やナボコフ研究の関連学会でも発表を考えている。国際的な水準での発表を目指す。

#### 4. 研究成果

ウラジーミル・ナボコフの当時のコンテキストにおける受容について研究をおこなった。北米のアーカイヴ(ハーヴァード、MIT、テキサス大学オースティン校ハリー・ランサム・センター、議会図書館)を訪問して、所蔵書簡等のリストを作成した。

MITインスティテュート・アーカイヴでは主にロマン・ヤコブソンとのやりとりと『イーゴリ軍紀』関連文書を、テキサス大学ハリー・ランサム・センターではジェイスン・エプスタインやエドワード・ウィークスとの書簡を、議会図書館ではボーリングン基金ウィリアム・マクガイアやセルゲイ・ラフマニノフとの書簡を、ハーヴァード大学ホートン図書館ではジェームズ・ロフリンとの書簡をそれぞれ閲覧した。

また所属図書館をつうじて、アメリカで刊行されたロシア語新聞『新しいロシアのことは』のマイクロフィルムをとりよせ、1940年代のナボコフによる貴重な投書を読んだ。その結果、ナボコフが渡米後の1940年代以降においても、亡命ロシア人やロシア語媒体と緊密に連絡をとりながら、アメリカの出版界に進出していったことが確認された。

資料調査と並行して、ACLA、ASEES、ICCEESといった国際的な研究集会にも参加し、研究者と交流することで、ナボコフ研究における最新の研究成果について情報収集をおこなった。

このような活動によって把握した1940年代における、渡米後の受容のされ方について、アメリカの前衛的出版社ニューディレクションズ創業者ジェームズ・ロフリンとナボコフとの関係について、知見をえ、日本ナボコフ協会大会にて「ナボコフとロフリン」として口頭発表した。

また、アーカイヴ調査によって発見した資料について、その一部を「ナボコフとハートランス・アトランティックな想像力がトランス・パシフィックな想像力と出会うところ——あるいは文学的バタフライエフェクト」、「Notes on Nabokov's "Notes on my Father"」としてまとめ、公刊した。

また、国際的なナボコフ研究誌である *Nabokov Online Journal* に論文 *Revisiting Nabokov's The Defense as a Moral Game: What Made Luzhin Commit Suicide?* を投稿し、受理され掲載された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

秋草俊一郎、ナボコフとハートランス・アトランティックな想像力がトランス・

パシフィック な想像力と出会うところ  
あるいは文学的バタフライエフェクト、れ  
にくさ、査読無、6巻、2016、333-346

秋草俊一郎、Revisiting Nabokov's *The  
Defense* as a Moral Game: What Made  
Luzhin Commit Suicide?, *Nabokov Online  
Journal*, 査読有、8巻、2015、1 - 23

秋草俊一郎、Notes on Nabokov's "Notes  
on my Father", *The Nabokovian*, 査読無、  
73巻、2014、46

〔学会発表〕(計2件)

秋草俊一郎、引用するのは「私」 ナボコ  
フの場合、日本T・S・エリオット協会大会、  
愛知学院大学日進キャンパス(愛知県名古屋  
市) 2015年11月7日。

秋草俊一郎、ナボコフとロフリン、日本ナ  
ボコフ協会大会、創価大学(東京都八王子市)  
2015年5月16日。

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://researchmap.jp/read0139894/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

秋草 俊一郎 (AKIKUSA Shun'ichiro)

東京大学・教養学部・講師

研究者番号：70734896

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：